

# 資 料 編

1 広島市立大学の現状 .....	2 5
市立大学の組織 .....	2 5
学生の状況 .....	2 8
入試等の状況 .....	2 9
就職の状況 .....	3 1
教育・研究・地域貢献に係る取組み .....	3 4
2 広島市立大学の改革に向けた取組み .....	4 2

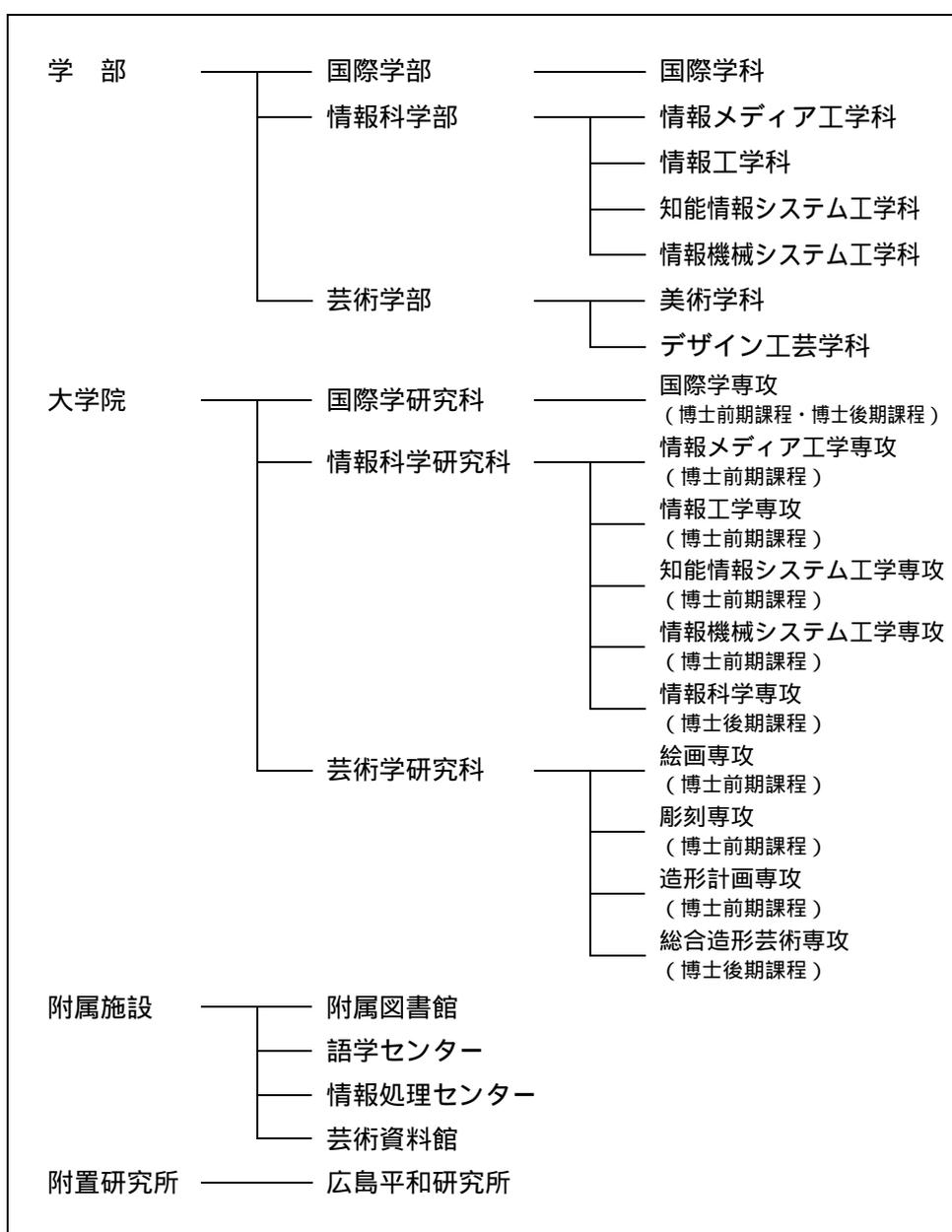
# 1 広島市立大学の現状

## 市立大学の組織

### 学部等の構成

「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」という基本理念に基づき、国際学部、情報科学部、芸術学部の3学部、3研究科、1研究所等で構成されている。

### 学部等の構成図



## 組織運営

教員 1 人当りの学生数は、公立大学（77 校）中、多い方から中位（36 番目）に位置し、また、職員 1 人当りの学生数では、多い方から 12 番目に位置している。

（公立大学実態調査（16 年度調査）による）

教員 1 人当りの担当講義時間数は、国際学部 3.2 コマ/週、情報科学部 6.1 コマ/週、芸術学部 6.5 コマ/週となっており、国際学部と他学部の間でアンバランスがある。（平成 17 年度）

## 教職員数

（平成 17 年 10 月 1 日現在）

区 分	教 員						職員	計(人)
	学長	教授	助教授	講師	助手	小計		
学 長	1					1		1
事 務 局							32	32
国 際 学 部		25	21	10		56		56
情 報 科 学 部		25	23	1	42	91		91
芸 術 学 部		13	14	3	1	31		31
附 属 図 書 館							2	2
情報処理センター			1		1	2		2
広島平和研究所		3	3	3	3	12	3	15
計(人)	1	66	62	17	47	193	37	230

## 教員一人当たり担当講義時間数（平成 17 年度）

（W：週）

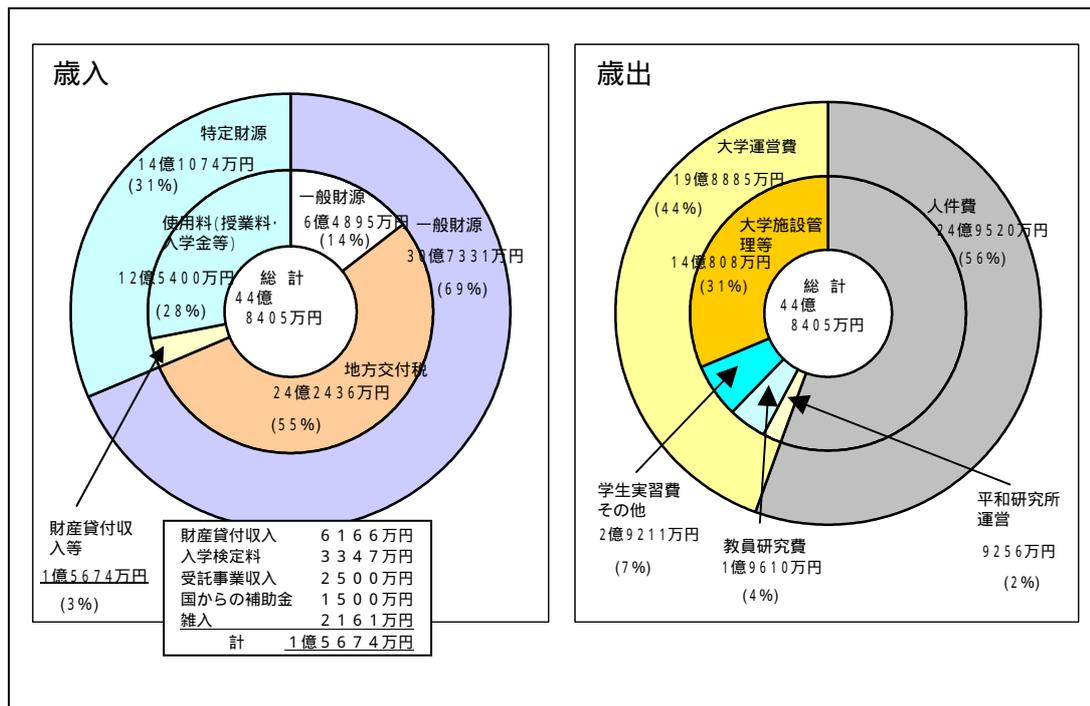
区 分	教員数	総コマ数	平均コマ数	備 考
国際学部	51 人 他学部専門担当 2 人、海外出張者 1 人を除く	163 コマ/W 卒論指導 41 コマ/W を除く	3.2 コマ/W 卒論指導を算入 の場合： 4.0 コマ/W	助手なし TA なし
情報科学部	50 人 (助手は除く)	307 コマ/W 実験 54 コマ/W を含む	6.1 コマ/W 実験 54 コマ/W を除いた場 合：5.1 コマ/W	助手：43 人 TA：47 人
芸術学部	30 人 (助手は除く)	196 コマ/W うち実習 183 コマ/W	6.5 コマ/W	助手：1 人 TA：13 人

## 大学予算

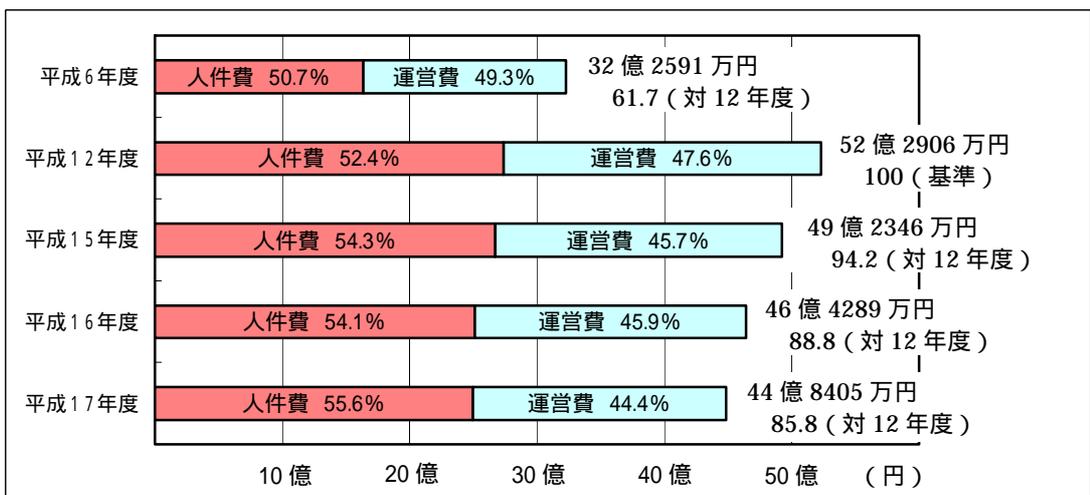
大学の運営に係る予算は、平成12年度をピークに年々減少しており、平成17年度は、ピーク時と比べて85.8%になっている。

大学の運営に係る市民1人当たりの負担額（一般財源分）は、約2,900円（平均：約2,600円）で、公立大学を持つ政令市（7市）中で、多い方から3番目に位置している。（公立大学実態調査（16年度調査）による）

### 市立大学予算の内訳（平成17年度）



### 市立大学予算の当初予算（歳出）の変遷



## 学生の状況

### 学生数

学部・大学院を合わせ、現在、約2,000人の学生が在籍している。

全学では男子学生が59.4%、女子学生が40.6%であるが、国際学部・国際学研究科では76.5%が女子学生である。

### 学生数（平成17年10月1日現在）

〔学部〕

（単位：人）

学部	学科・専攻	総定員	9~13年度 入学生	14年度 入学生	15年度 入学生	16年度 入学生	17年度 入学生	合計	
国際学部	国際学科	400	(10) 17	(83) 104	(84) 102	(82) 102	(89) 106	(348) 431	
情報科学部	情報メディア工学科	210	7	45	53	50	50	205	
	情報工学科	210	14	52	54	55	56	231	
	知能情報システム工学科	210	12	49	60	54	52	227	
	情報機械システム工学科	210	8	46	50	52	52	208	
	計	840	(1) 41	(32) 192	(27) 217	(28) 211	(34) 210	(122) 871	
芸術学部	美術学科	日本画専攻	40	1	10	10	11	11	43
		油絵専攻	80	2	20	19	20	20	81
		彫刻専攻	40	1	10	10	10	11	42
		小計	160	4	40	39	41	42	166
	デザイン工芸学科	160	8	38	39	39	40	164	
	計	320	(5) 12	(53) 78	(54) 78	(58) 80	(59) 82	(229) 330	
合計	1,560	(16) 70	(168) 374	(165) 397	(168) 393	(182) 398	(699) 1632		

〔大学院〕

（単位：人）

研究科	専攻	総定員	12・13年度 入学生	14年度 入学生	15年度 入学生	16年度 入学生	17年度 入学生	合計
国際学研究科	国際学専攻	30		0	1	13	18	32
	国際学専攻(博士)	21	12	7	7	9	5	40
	計	51	(6) 12	(2) 7	(5) 8	(10) 22	(12) 23	(35) 72
情報科学研究科	情報メディア工学専攻	36				18	18	36
	情報工学専攻	42		1		27	19	47
	知能情報システム工学専攻	42			1	18	11	30
	情報機械システム工学専攻	48			1	24	27	52
	情報科学専攻(博士)	84	2	1	9	4	9	25
	計	252	(1) 2	(0) 2	(1) 11	(7) 91	(7) 84	(16) 190
芸術学研究科	絵画専攻	20				14	13	27
	彫刻専攻	8				6	5	11
	造形計画専攻	32			1	14	18	33
	総合造形芸術専攻(博士)	18		5	10	6	8	29
	計	78		(2) 5	(8) 11	(25) 40	(26) 44	(61) 100
合計	381	(7) 14	(4) 14	(14) 30	(42) 153	(45) 151	(112) 362	

注：( )内は女子で内数

## 入試等の状況

### 入学試験の状況（平成17年度）

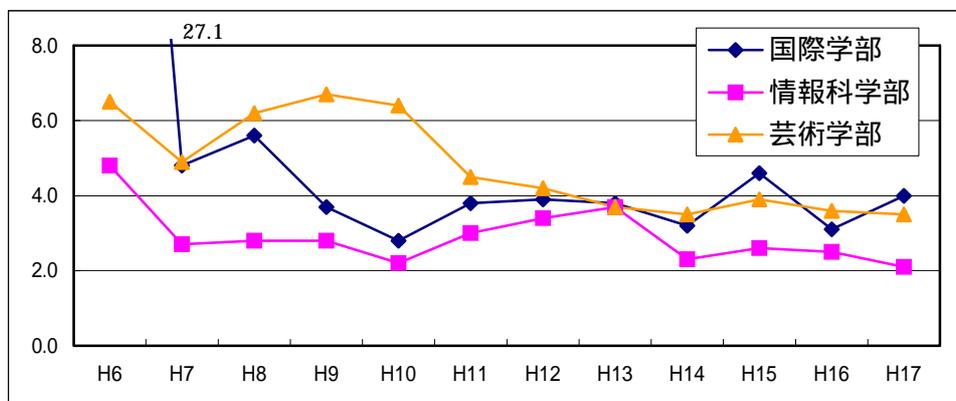
競争倍率は、全学平均で3倍前後で推移しており、現在、AO入試の導入について検討している。

#### 入学試験の概要（平成17年度）

（単位：人）

学 部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍 率
国際学部	100	631	473	117	106	4.0
情報科学部	200	798	486	233	210	2.1
芸術学部	80	339	326	92	82	3.5
計	380	1,768	1,285	442	398	2.9

#### 入学試験倍率の状況



### 入学者の状況

国際学部、芸術学部では女子学生の割合が高く、情報科学部では男子学生の割合が高くなっており、また、全学では広島市出身者が約4割（広島県内は約6割）を占めている。

#### 入学者の男女別等（平成17年度）

（単位：人）

学部	入学者数	男	女	広島市内	広島市外	広島県外	新卒	既卒
国際学部	106	17	89	44	23	39	94	12
情報科学部	210	176	34	110	44	56	181	29
芸術学部	82	23	59	22	9	51	44	38
計	398	216	182	176	76	146	319	79

### 社会人選抜の状況（大学院）

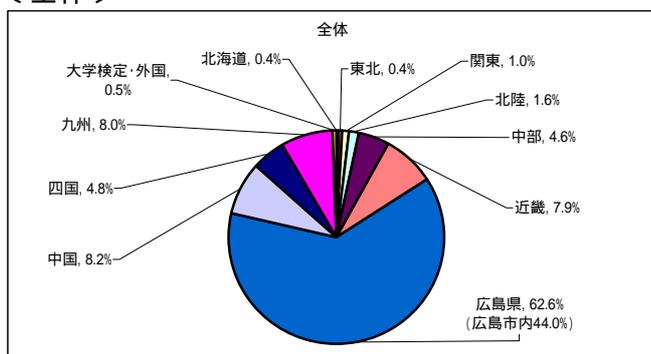
国際学研究科（博士前期課程）は、平成17年度入試から情報科学研究科（博士前期・後期課程）は18年度入試から、社会人選抜を実施している。

#### 平成17年度実施状況（国際学研究科）

区 分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	15	8	8	6	5
社会人選抜	若干名	4	4	4	4
計		12	12	10	9

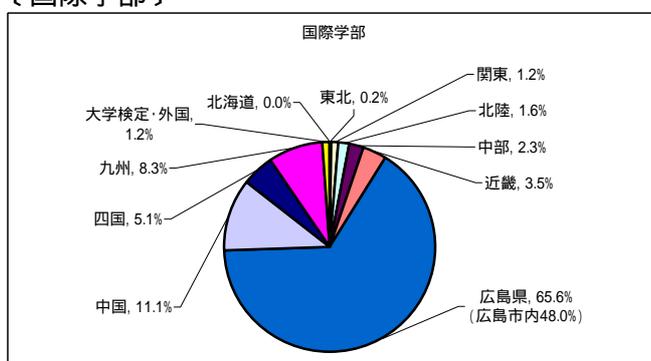
## 入学者の出身地域（平成17年度）

### 〔全体〕



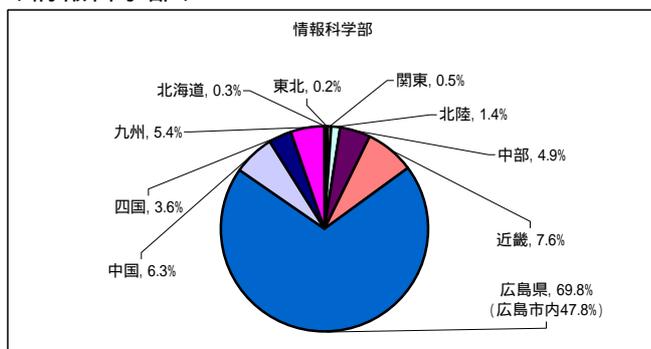
北海道地方	6人
東北地方	7人
関東地方	17人
北陸地方	27人
中部地方	75人
近畿地方	129人
中国地方	1,163人
四国地方	79人
九州地方	131人
大学検定・外国	8人
合計	1,642人

### 〔国際学部〕



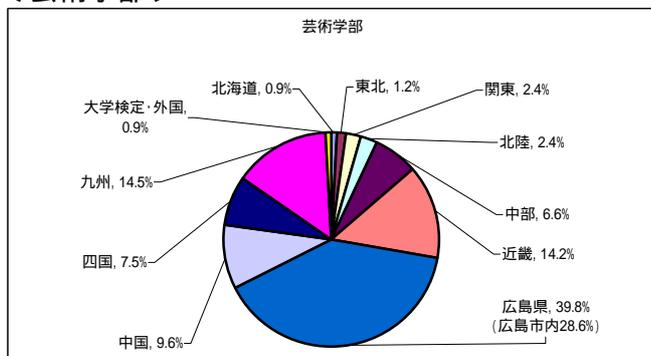
北海道地方	0人
東北地方	1人
関東地方	5人
北陸地方	7人
中部地方	10人
近畿地方	15人
中国地方	332人
四国地方	22人
九州地方	36人
大学検定・外国	5人
合計	433人

### 〔情報科学部〕



北海道地方	3人
東北地方	2人
関東地方	4人
北陸地方	12人
中部地方	43人
近畿地方	67人
中国地方	667人
四国地方	32人
九州地方	47人
大学検定・外国	0人
合計	877人

### 〔芸術学部〕



北海道地方	3人
東北地方	4人
関東地方	8人
北陸地方	8人
中部地方	22人
近畿地方	47人
中国地方	164人
四国地方	25人
九州地方	48人
大学検定・外国	3人
合計	332人

## 退学の状況（平成 18 年 3 月 13 日現在）

退学率は、入学者の 10%未満の水準で推移している。

### 退学者の推移（入学年別）

（単位：人）

学部	18年度 入学定員	6~9年度 入学	10年度 入学	11年度 入学	12年度 入学	13年度 入学	14年度 入学	15年度 入学	16年度 入学	17年度 入学	合計
国際学部	100	16	7	3	2	0	4	1	1	0	34
情報科学部	210	75	16	18	8	12	14	3	3	1	150
芸術学部	80	6	2	3	0	2	3	2	2	0	20
合計	380	97	25	24	10	14	21	6	6	1	204

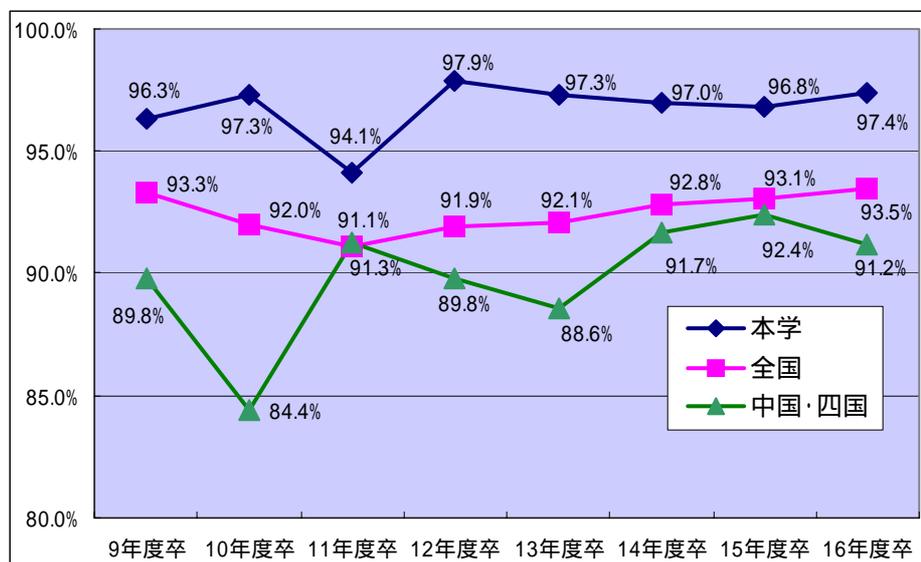
## 就職の状況

### 就職の状況

全国平均と比べて、高い就職率を維持している。学部卒業生の就職先の地域別では、広島県内が 41.3%（広島市内 35.4%）、関東地方が 38.1%、近畿地方が 9.5% となっている。

### 就職率の推移

（学部生）

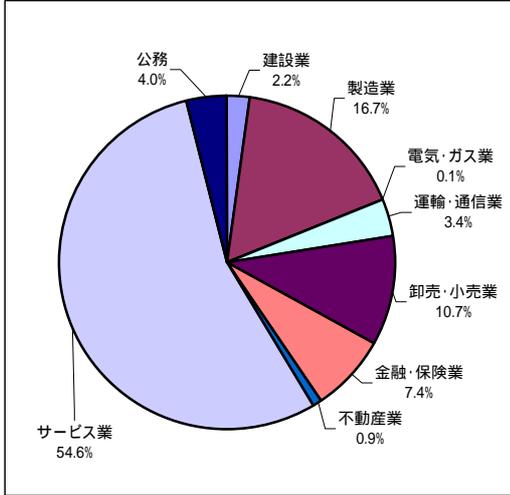


（大学院生）



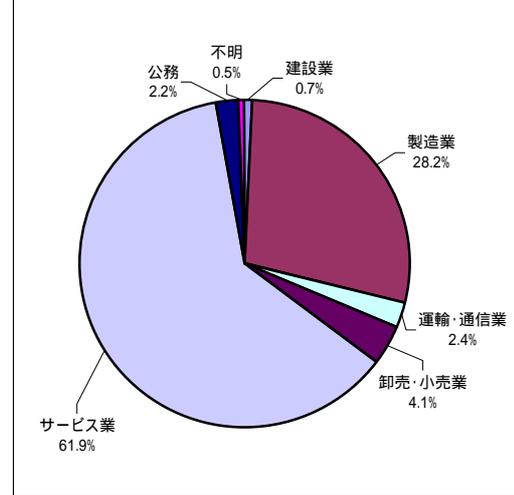
### 就職先の業種別構成比

学部生(9年度卒～16年度卒の累計[1,489名])



サービス業 54.6% (情報サービス業 42.3%)

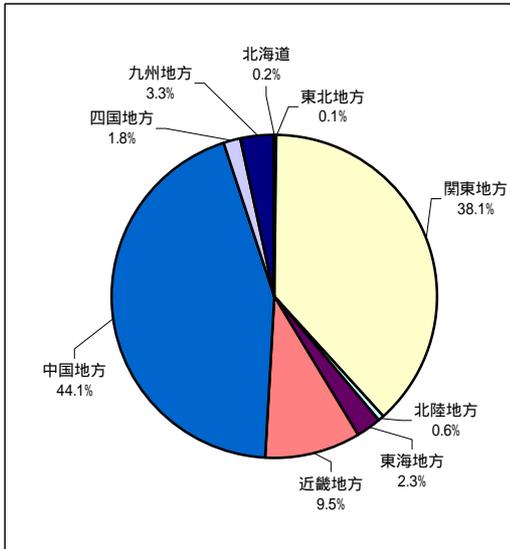
大学院生(11年度卒～16年度卒の累計[412名])



サービス業 61.9% (情報サービス業 56.6%)

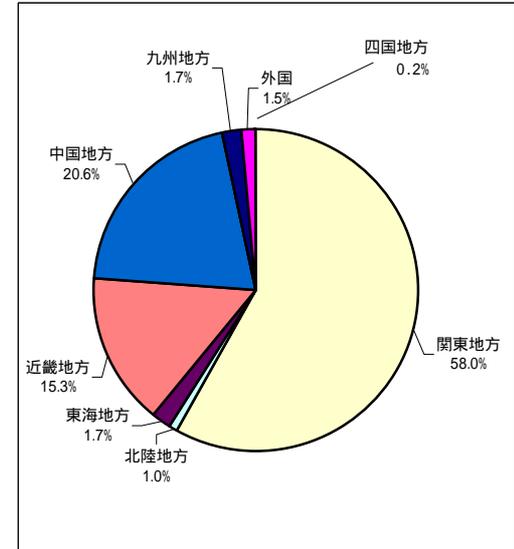
### 就職先の地域別構成比

学部生(9年度卒～16年度卒の累計[1,489名])



中国地方 { 広島県 41.3%  
44.1% { 広島市 35.4%

大学院生(11年度卒～16年度卒の累計[412名])

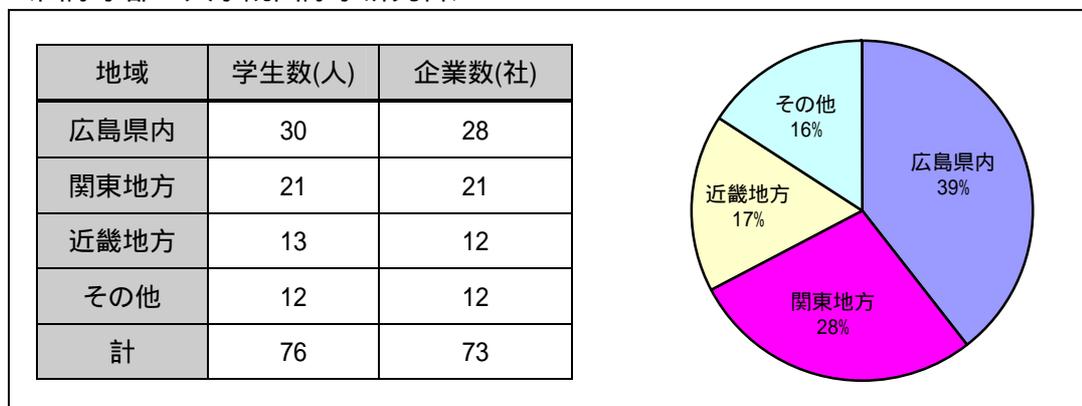


中国地方 { 広島県 18.9%  
20.6% { 広島市 14.3%

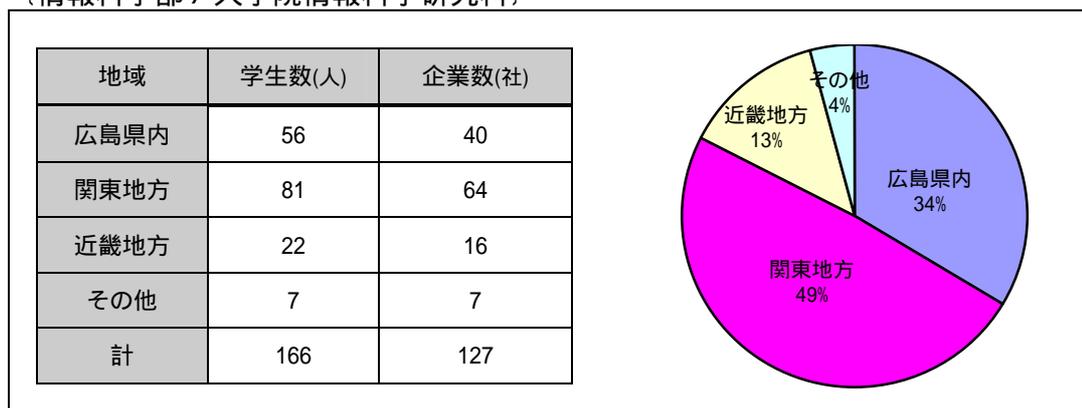
(注) 就職先企業の本社所在地で整理した。

各学部卒業生の就職先地域別構成比(平成16年度)

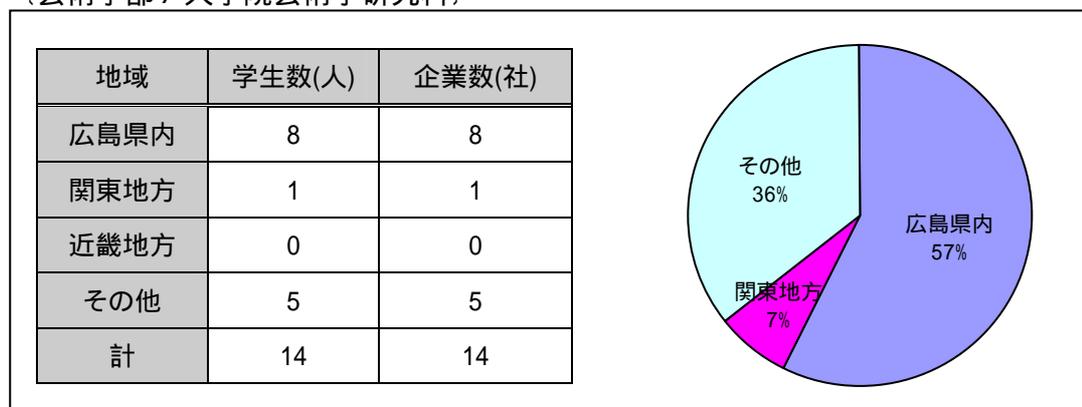
〔国際学部 / 大学院国際学研究科〕



〔情報科学部 / 大学院情報科学研究科〕



〔芸術学部 / 大学院芸術学研究科〕



## 教育・研究・地域貢献に係る取組み

### 教 育

市立大学は、「国際学」、「情報科学」、「芸術学」の3つの専門分野を教育・研究の中心とする学部構成を特色としている。3学部の専門分野はそれぞれ独立しているが、カリキュラムは総合科目や共通科目等を通して有機的に連携しており、専攻分野に偏らない幅広い知識を習得できるようになっている。

また、広島県の歴史や特性を踏まえた講義など、下記のような特色ある講義科目を実施している。

#### 特色ある講義科目

科 目 名		学 部 等	概 要
CALL 英語集中(ネットワーク型集中英語学習プログラム)		全学共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>- コンピューターネットワークを利用した英語集中学習プログラムにより、リスニング、リーディング、文法を集中的に訓練する。</li> <li>- 履修者は、指定された期間中の自分の都合のよい時間に語学センターに来て、ネットワークを通じて配信される教材をコンピュータの指示に従って自分のペースで学習していく。</li> </ul>
広島・長崎講座	平和と人権(ヒロシマと国際平和)	全学共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 平和と人権の問題を考えるにあたり、特に「平和」の側面に焦点を当て、現代社会におけるその意義、構造、実現するための課題について探求する。</li> <li>- 広島の被爆体験を軸に、様々な角度から広島と平和の関連について考える。</li> </ul>
	ひろしま論	全学共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 広島の歴史、行政、経済、産業、文化などをひもとしてその特色を知り、地域社会への関心を深め、地域社会の問題解決と将来の繁栄を思考できる幅広い見識を持った人材を育てる。</li> </ul>
	HIROSHIMA and PEACE	国際学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 60年前の広島への原爆投下を含む戦時経験について、さまざまな観点から光を当てるとともに、グローバル化時代における世界平和に関連した今日的課題を取り上げることにより、戦争と平和の本質に対する理解を深める機会を、国内外の学生に提供することを目的としている。</li> <li>- 国際学部と広島平和研究所との協力により、夏期集中講座として、英語により開講している。</li> </ul>
情報と企業(産学連携による遠隔講座)		情報科学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>- (財)経済広報センターによる教育支援活動の一環として慶應義塾大学に開設された寄附講座を、実時間遠隔講義環境を利用して、慶應義塾大学、京都大学及び広島市立大学の3大学を接続し、本学からも利用できるようにしている。</li> </ul>

## 研究

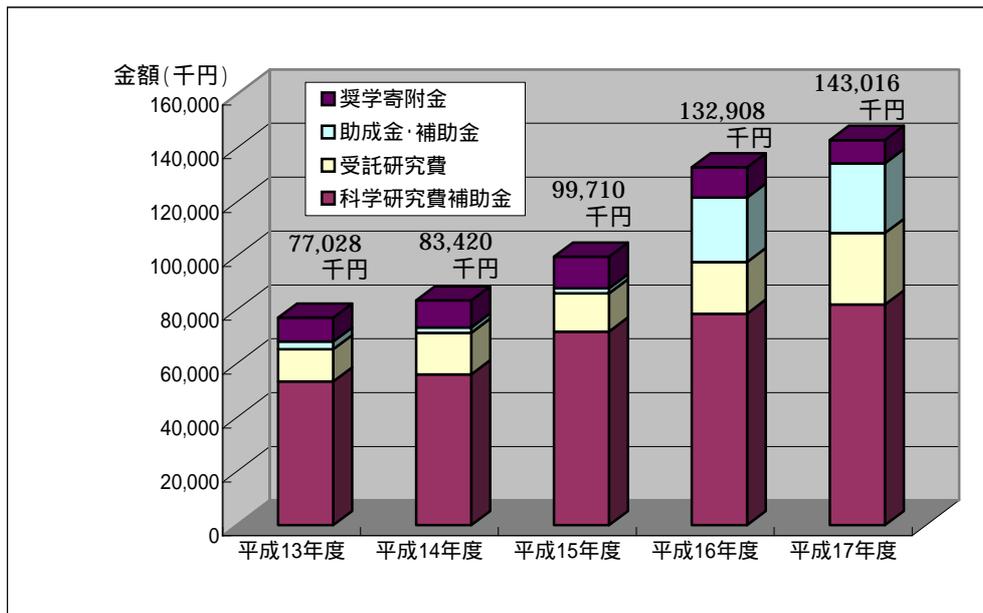
学内の教員研究費や特定研究費などを活用し特色ある研究に取り組んでいる。

文部科学省等の科学研究費補助金に採択された件数は、公立大学（73校）中、多い方から14番目（医歯学系学部を設置する大学を除くと4番目）に位置している。（文部科学省公表資料）

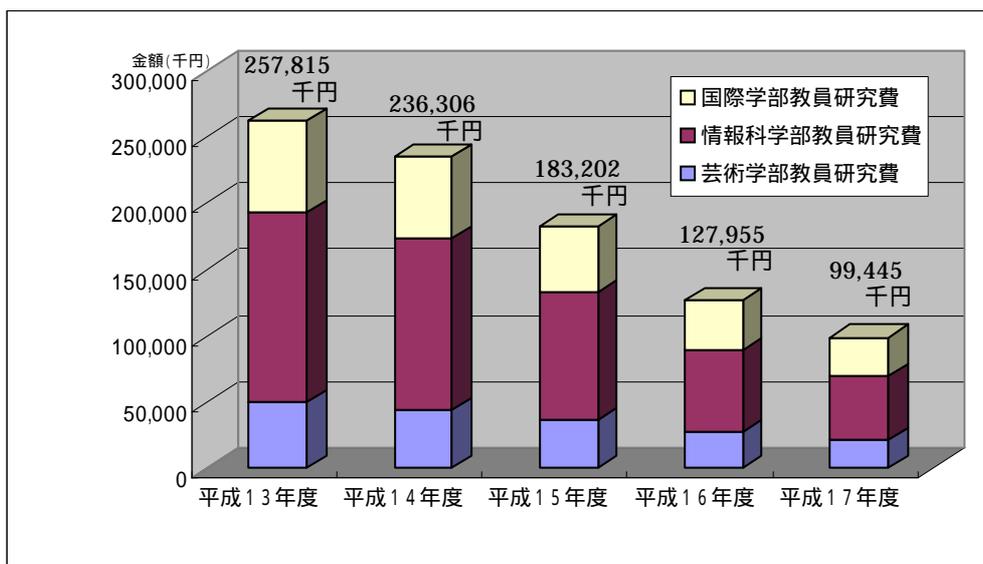
平成17年度に交付された文部科学省等の科学研究費補助金の内訳は、35頁から36頁のとおり。

### 外部資金獲得額の推移

（17年8月現在）



### 教員研究費〔学内研究費〕の推移



平成17年度に交付された科学研究費補助金の内訳

研究種目名	所属	研究課題名
基盤研究(A) 1件	国際学部	世界神話のコスモロジー
基盤研究(B) 5件	情報科学部	テストデータの圧縮・展開を指向したテストアーキテクチャに関する研究
	国際学部	視覚メディアにあらわれた日露相互のイメージと表象・日露関係の理解のために -
	国際学部	英語学習者の語用論的能力育成に関する多元的情報サイトの構築
	芸術学部	西藏自治区・青海省を結ぶ藏族の工芸美術と芸能の文化、その資料と保存に関する研究
	国際学部	パブリック・ディプロマシーにおけるグローバル・メディアの役割と国家戦略の調査
基盤研究(C) 19件	情報科学部	環境適応型エージェントに基づくアシュアランスネットワークソフトウェアの設計と評価
	情報科学部	体内時計に対して電磁界が及ぼす影響に関する研究
	国際学部	「マケドニア」意識の多義性と「民族」形成における国際関係要因
	情報科学部	ネットワークカメラによる監視制御システムに関する研究
	情報科学部	退化現象を利用した構造学習アルゴリズムとその応用に関する研究
	情報科学部	数値属性とグラフ構造を有するハイブリッドデータからのデータマイニング
	情報科学部	非線形最適化計算による画像列からの3次元形状復元の研究
	情報科学部	感性評価・EMG・バイオメカニクスに基づく使い易いペンの開発
	情報科学部	表面吸着分子の回転運動の直接観測
	平和研究所	北朝鮮社会主義体系の適応遅滞が対外政策に及ぼす影響：核外交を中心に
	平和研究所	大量虐殺と集団暴力の比較研究：その普遍的形態の分析と防止策の考察
	情報科学部	緊急・重要通信のためのIPネットワークサービスのアシュアランス化
	芸術学部	チベット仏画工房村の伝統技法用法と伝統の継承に関する調査研究
	情報科学部	暗号化によるプログラムの保護技能をサポートするプロセッサ・アーキテクチャ
	情報科学部	可逆圧縮された大規模グラフ構造データからのデータマイニング手法の開発
	情報科学部	制約問合せ処理の最適化と制約データベースの枠組みに関する研究
	情報科学部	空間光通信を用いた複数移動ロボットの共同作業のための相対的な作業空間地図の作成
	国際学部	同盟と核軍縮：日本、オーストラリア、ニュージーランドの市民社会と対米同盟
	情報科学部	東海・伊豆地域におけるVHF帯地震電磁現象に関する研究
特定領域研究 3件	情報科学部	機械学習手法による半構造データマイニングと情報抽出
	情報科学部	高齢者の知覚・認知・運動特性を考慮した入力デバイスの開発
	情報科学部	新世紀を担う子どものための数学問題セットの開発
萌芽研究 2件	国際学部	日本・アフリカ音楽文化交流史-江戸期を中心に-
	芸術学部	ヒロシマ・グランドゼロ(ヒロシマ爆心地における町並みと原爆爆発のCG再現)
若手研究(B) 20件	情報科学部	分岐ペナルティを低減した高並列スーパーカラ・プロセッサ
	情報科学部	トップダウンルール知識とボトムアップ映像処理に基づくスポーツビデオの構造化
	情報科学部	知的好奇心に基づく継続的探究を実現する地域連携型学習コミュニティの構築
	情報科学部	自律分散クラスタリングに基づくアドホックネットワークソフトウェアの設計
	情報科学部	計算機クラスタ上での動的なトランザクションスケジューリングに関する研究
情報科学部	Web情報を用いた新アイデア創発支援環境の構築	

情報科学部	文書集合の構造化に基づく効率的な情報アクセス技術の開発
情報科学部	頭部MRAにおける脳血管構造解析と動脈瘤検出支援に関する研究
情報科学部	成層圏オゾン破壊ハロゲンサイクルでのリザーバの光分解による再活性化の影響力評価
情報科学部	摩擦オブザーバを用いた空気圧サーボ系の制御
情報科学部	行列言語インタプリタ用ランタイムルーチン生成系の開発
情報科学部	基本処理性能を評価するための再構成型アーキテクチャ用ベンチマークプログラムの開発
情報科学部	双方向テキストチャ関数(BTF)の拡張による材質表面の微細構造の表現
情報科学部	罫線文書を対象にした機械学習手法の開発とデータマニングへの応用
情報科学部	中間仮説に基づく分類機構を備えた進化的ルール抽出システムの構築
情報科学部	速度知覚によるVORゲイン調節のメカニズム
国際学部	19世紀以降のアイルランド文学における文化と言語の多元性の研究
平和研究所	米公文書と被ばく者証言に基づく米核実験の史的研究: 1945年-1963年を中心に
国際学部	大学発ベンチャーの日韓比較
情報科学部	正標数の代数的閉体上定義された代数多様体の研究

平成17年度特定研究費採択内訳

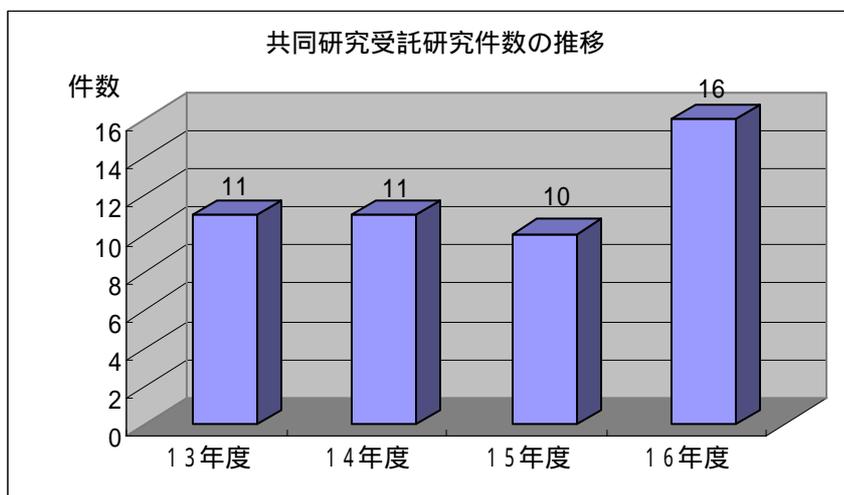
研究種別	所属	研究課題
指定研究費 8件	国際学部	広島地域の産業と企業の研究-マツダと地場サプライヤ-を中心に
	国際学部	HIROSHIMA and PEACE を発展させるための新しい平和研究と英語教育-被爆60年報道検証と討論能力養成に向けて
	芸術学部	模写による県内文化財研究と保存継承
	芸術学部	日本画製作の現場 4
	芸術学部	美術教育システムを形成する東西美術造形観比較研究と宮島における文化的地域貢献
	芸術学部	現代の写実絵画復権の方法と意味を探る-広島被爆者とその系累の肖像を通して
	国際学部	広島広域都市圏における文化・スポーツ空間の再編・発展に関する研究
	芸術学部	フランスと広島の美術文化比較研究と美術教育システムの関わりについて-ルーアン美術大学との教育研究提携を通して
一般研究費 25件	情報科学部	マルチメディアコンテンツを対象とした特徴抽出アルゴリズムと検索アルゴリズムの開発
	情報科学部	バイオディーゼル燃料化装置排水の微生物処理とNPOとの連携による循環型社会実現プロジェクト
	情報科学部	10GHz帯光変調器を用いた地上デジタル放送伝送システム
	情報科学部	リアルタイムOSを用いた高速データ取得装置の開発とその応用-広島から発信する計測プログラミングの新展開
	情報科学部	PCクラスタによる並列強化学習の研究
	情報科学部	携帯端末による健康管理情報のID化手法の構築
	情報科学部	進化的手法による状態汎化を用いたエージェントの行動学習
	情報科学部	パーティクル・フィルタを用いた人間の動作認識
	情報科学部	教材知識の再利用のためのオントロジー構築に関する研究
	情報科学部	東海・伊豆地域におけるVHF帯地震電磁現象に関する研究
	情報処理センター	高品質ストリーム伝送可能な移動体通信ノードの開発とその評価
	情報科学部	大規模高速3次元形状復元アルゴリズムの開発と原爆ドームの高精度デジタル映像化
	情報科学部	IPネットワークにおける非常時通信技術の研究
	情報科学部	グリッドコンピューティング環境におけるデータベース処理に関する研究
	芸術学部	轆轤文化の調査研究 中国地方の轆轤文化と技術を中心に

	国際学部	地域に暮らす中高齢者の身体活動を増進させるための実践的研究
	情報科学部	アドホックネットワークルーティングソフトウェアの設計とテスト
	情報科学部	並列分散遺伝的アルゴリズムに基づく ULSI フロアプラン設計手法の開発と評価
	情報科学部	半導体薄膜成長過程に関わる極微量化学種の真空紫外レーザーを用いたイオン化による質量分析
	情報科学部	姿勢制御に影響を及ぼす視覚刺激の空間特性と運動特性に関する産業保健人間工学的検討
	情報科学部	空間データの位置変化とバージョン管理のためのデータ管理構造に関する研究
	情報科学部	MATLAB に基づく並列疎行列コード生成
	情報科学部	電波測定に基づいた効率的な地上 TV 放送のデジタル化に関する研究
	情報科学部	論文間の参照情報を利用した専門用語シソーラスの自動構築
	芸術学部	ヒロシマ・グランドゼロ
国際学術研究費 A	国際学部	現われ・想像・記憶 古代ギリシアの思想分析から現代的課題の探求へ
	7件 国際学部	発展途上国における水資源の利用管理の制度改革に関する評価
	国際学部	グローバル環境における地域企業のビジネスモデルの形成と展開
	芸術学部	学生交流事業 Art Crossing Hiroshima project2005 Autumn - ギフト・オブ・ヒロシマ
	平和研究所	第2次世界大戦期における米軍の「精密爆撃」の変容 広島・長崎原爆投下に至る歴史過程の社会的分析
	国際学部	現代アジア・太平洋の変化と連続性の再検討
	芸術学部	国際的視野に基づく都市芸術の創造
国際学術研究費 B	芸術学部	日-独相互交流可能なグローバル芸術教育の実践的研究
	3件 国際学部	Zodiaque の比較研究-フランスの中世百科全書と東洋
	情報科学部	アドホックネットワークにおけるモバイル計算機構
研究成果公表経費 (印刷経費)	国際学部	神経症症状の出現様式と文化との関連について-日中比較を通して
	2件 国際学部	新たな時空における「女性」の想像・創造

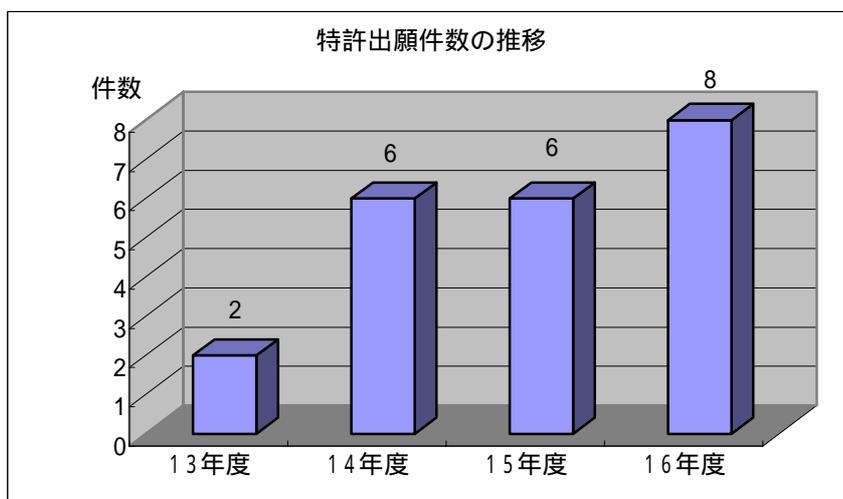
## 産学官連携

産学官連携コーディネーターと知的財産マネージャーを配置した産学官連携推進室を設置し、共同研究・受託研究の推進など産学官の連携推進に努めている。

## 共同研究及び受託研究の実施状況



## 特許出願状況



### 情報発信及び産学官交流事業

- 広島市立大学リエゾンフェスタの開催（平成15年度～）
- 広島市立大学研究シーズ集の発行（平成15年度～）

### 産学協同事業（芸術学部寄附講座等）の例

- ピースサイト Hiroshima2005（NHK）
- キッズキャンパス（日野自動車）
- アニメーションアカデミー（経済同友会）

## 高大連携事業

### 教育ネットワーク中国における高大連携（H17年度）

- 授業公開（大学の授業を高校生に公開）及び公開講座（高校生向けの講座）

### 広島市教育委員会との高大連携講座（H16年度実績）

- 講座名：「国際化実践講座」
- 講座名：「広い広い情報科学の世界」
- 講座名：「コンピュータグラフィックスによる3D表現」

### 芸術学部中・高生対象サマースクール（H17年度）

### 情報科学部公開講座（H17年度）

- 講座名：高校生の情報科学自由研究

### 高校での模擬授業の開催

### 研究活動を通じた高大連携の実践例（平成16年度）

- 工業系高等学校におけるIPv6を用いたユビキタス社会実験研究
- 広島市立大学講義中継実験（平成16年度特定研究）
- 広島市立美鈴が丘高校遠隔プレゼンテーション（平成16年度特定研究）

### 高校等教科指導研究等への協力

- 教科指導研究事業（高校・大学教員共同研究）
- 高等専門学校教育方法改善プロジェクト

## 地域貢献

公開講座の実施（平成16年度実績）

平成16年度には、3学部及び研究所の主催により、14講座を開講し、市民に対し学習機会の提供に努めている。

### 公開講座の状況（平成16年度）

#### 〔国際学部〕

講座名	時間	会場	定員	参加者
持続可能な社会を築くために（ ） - 21世紀の環境と開発：人類の共生を目指して -	19:30～ 21:00	まちづくり市民 交流プラザ	100人	124人

#### 〔情報科学部〕

講座名	時間	会場	定員	参加者
LinuxにおけるC言語プログラムの開発	18:30～ 20:30	知能情報システム 工学科実験室	30人	33人
Linuxによるサーバの構築・管理	18:30～ 20:30	まちづくり市民 交流プラザ	30人	34人
LinuxによるJava言語プログラミング	18:30～ 20:30	知能情報システム 工学科実験室	20人	32人
(講演会) 1)身の回りにおける制御技術の基礎とその応用 2)地上波デジタルTV放送の仕組みと新技術 3)デバッグブルコンピュータ - 頼りになるコンピュータ - 4)情報ネットワークの利用心得・脅威と対策	10:30～ 18:00	まちづくり市民 交流プラザ	100人	86人
Linuxによるサーバの構築・管理	13:00～ 18:30	まちづくり市民 交流プラザ	30人	32人

#### 〔芸術学部〕

講座名	時間	会場	定員	参加者
展覧会をつくる	18:00～ 20:00	まちづくり市民 交流プラザ 本学	20人	
日本画（10号程度の制作）	9:00～ 16:00	アトリエ	30人	27人
油絵（専門）（人体30号）		アトリエ	10人	12人
油絵（一般）（人体20号）		アトリエ	20人	29人
版画（石版画（リトグラフ））		工房	10人	15人
彫刻（塑造で人物頭部）		アトリエ	12人	1人
染色（プリントによる飾布制作）		工房	10人	8人

#### 〔広島平和研究所〕

講座名	時間	会場	定員	参加者
連続市民講座 戦争と平和 - 文化・思想・運動からのアプローチ	19:00～ 21:00	まちづくり市民 交流プラザ	60人	60人

### 審議会委員等への就任

国、県、市、その他自治体や関係団体の審議会委員等に多数就任している。

### 審議会等への就任状況

国	県	広島市	自治体	その他	合計
8	14	39	5	22	88

### 国際学术交流

世界各国の9大学と学术交流協定を締結し、教員・学生交流や共同研究等を行っている。

### 学术交流協定締結状況

大学名・国名	締結年月日	主な交流内容	16年度交流実績
西南師範大学 中華人民共和国	H8.3.27	教員・学生交流 共同研究等	教員派遣：3名 教員受入：1名
ハノーバー専科大学 ドイツ連邦共和国	H9.5.30	教員・学生交流 共同研究等	教員受入：3名 教員派遣：3名 学生派遣：6名 学生受入：7名
モハメド五世大学 モロッコ王国	H12.12.12	教員・学生交流 共同研究等	
ハワイ大学マノア校 アメリカ合衆国	H13.1.11	教員・学生交流 共同研究等	学生受入(短期):4名 学生派遣：4名
オルレアン大学 フランス共和国	H15.6.4	教員・学生交流 共同研究等	学生受入：1名
チュニス・アルマナール大学 チュニジア共和国	H15.8.28	教員・学生交流 共同研究等	教員受入：1名
西京大学校 大韓民国	H17.3.15	教員・学生交流 共同研究等	-
アラヌス大学 ドイツ連邦共和国	H17.10.12	教員・学生交流 共同研究等	-
ベルリン・バイセンゼー大学 ドイツ連邦共和国	H17.12.9	教員・学生交流 共同研究等	-

## 2 広島市立大学の改革に向けた取組み

### 教育の改善・充実

学部・研究科の改組検討（情報科学部）

学部及び研究科の教育研究組織体制、教育カリキュラムの再構築の検討

カリキュラムの見直しと講義概要の改善

全学共通系科目、外国語系科目の新設、廃止等の検討（17年度～）

非常勤講師による科目の廃止、隔年開講、集中講義化等の検討（17年度～）

講義概要の内容の改善

- 教育目標、講義内容、評価方法等の明確化（17年度～）

- 講義概要のホームページでの公開（16年度～）

教員業績評価と授業評価の実施

自己評価支援システムの導入（教員業績のデータベース化と公開）

学生による授業評価アンケートの実施（17年度～）

行政評価の導入

ベンチマークの設定による行政評価を導入（17年度～）

〔指標〕学会の審査論文採択件数、外部資金獲得件数、特許出願件数、就職率等

遠隔講義システムの導入

慶應義塾大学・京都大学の遠隔講義への参画

「広島・長崎講座」の充実

「平和と人権A」「ひろしま論」「Hiroshima and Peace」の開講（17年度～）

### 研究費配分方法の見直し

一律であった教員研究費の配分方法を見直し、戦略的な研究に充てるため、予め教員研究費の一部を学部に残保する傾斜配分方式を導入（17年度～）

### 入学者選抜方法の改善

大学院国際学研究科（17年度）及び情報科学研究科（18年度）における社会人選抜制度の導入

情報科学部編入学募集定員の見直し

## 社会貢献・産学官連携の推進

### 知的財産管理体制の充実

産学官連携推進室に知的財産マネージャーを配置（17年度）

知的財産ポリシーの策定、知的財産マネジメント、知的財産教育や研修、技術移転の推進等の実施（17年度）

### 高大連携の推進

高校生対象の情報科学自由研究講座の開設（16年度～）

高校生への理数系教育、科学への興味や好奇心の喚起

### 地域貢献

#### 公開講座の実施

- 16年度：全14講座、17年度：全15講座

- 中高生向け芸術学部講座「サマースクール」の実施（16年度～）

#### 学外活動の実施

- 地域や民間団体等との連携による「アートプロジェクト」「ピースサイト Hiroshima」

「アニメーションアカデミー」などの学外活動を展開

#### 市立大学図書館の学外者利用の拡充

- 学外者への図書の貸出しを実施（17年度～）

#### 学生による社会貢献活動の促進

## 組織運営の効率化・財政基盤の強化

### 教育・研究・学生支援機能の強化

事務組織体制の見直し検討（17年度～）

### 外部資金獲得の推進

リエゾンフェスタの開催や研究シーズ集の発行等による共同研究・受託研究の推進

### 運営経費の削減

市立大学運営管理予算の状況

平成12年度（2000年度）

52.3億円



平成17年度（2005年度）

44.8億円